

## ブレディスローカップ～オークランド

今回の目的地は、イーデンパーク。昨年、ワールドカップ観戦でニュージーランドを訪れたものの、スケジュールが合わずメイン会場でもあるオークランドのイーデンパークでの試合を見る事ができなかったのが心残りでした。いつかは、王国のホームグラウンドでもあるこの地で、「世界最高峰のラグビーを観戦したい！」という願いを叶えるために、赤道を越えて今年もニュージーランドを訪問しました。



2012年8月25日・19時35分にキックオフのオールブラックス(ニュージーランド代表)対ワラビーズ(オーストラリア代表)のブレディスローカップに合わせて旅程を組んで、インターネットを駆使してチケットを購入。

当日のオークランドはお祭りムードで、街を歩けば、両チームのユニホームを着た人や、応援用の旗を持った人に出会えるし、昼間っからビールで乾杯している人が居たり、中心街から競技場まで歩く人が居たりと、試合開始前からワクワク。チケットさえ持っていれば、競技場行きのバスや電車はタダで乗れます。



夢にまで見たイーデンパーク。まずはプログラムを購入。

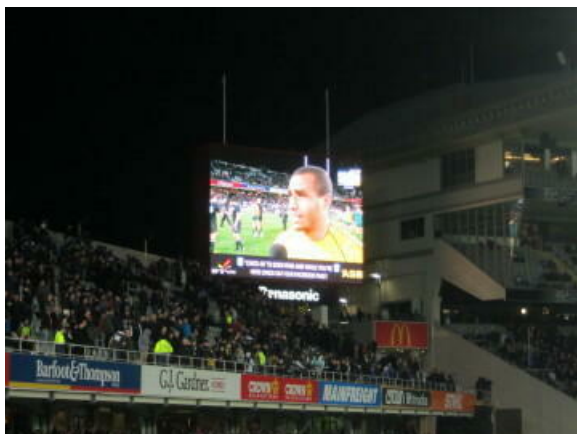
オールブラックスの先発メンバーは

- ①ワイアット・クロケット
- ②ケビン・メアレム
- ③オーエン・フランクス
- ④ルーク・ロマノ
- ⑤サムエル・ホワイトロック
- ⑥リアム・メッサム
- ⑦リッチー・マコウ
- ⑧キエラン・リード
- ⑨アーロン・スミス
- ⑩ダン・カーター
- ⑪ホセア・ギア
- ⑫ソニー・ビル・ウイリアムス
- ⑬マーア・ノヌー
- ⑭コリー・ジェーン
- ⑮イズラエル・ダグ



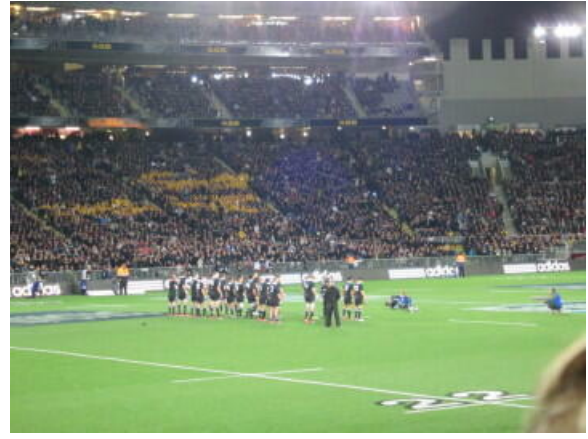
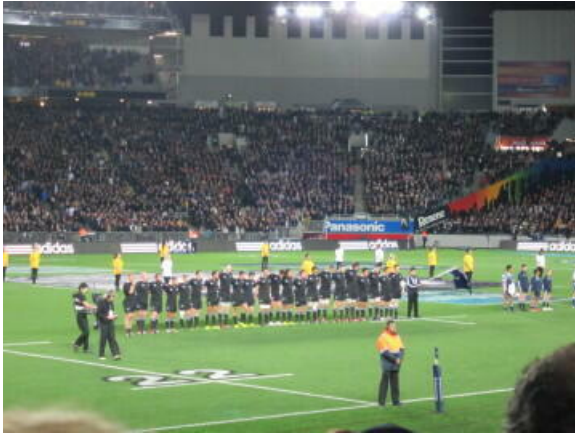
メンバーを見るだけで、またまたワクワク。注目は完全復活のダン・カーター、今シーズンからパナソニックでプレーするソニー・ビル・ウイリアムス。個人的には、いぶし銀の一例、フッカーのケビン・メアテムに注目です。

対するワラビーズの注目は、クイーンズランド・レッズ躍進の原動力となった⑨ウィル・ギーニア⑩クエイド・クーパーのハーフ陣と、走り屋⑪ディグビー・イオアネ。ギーニアは、今回はキャプテンとして登場です。



昨年のワールドカップに合わせて改修したスタンドのキャパは5万人。ペットボトルに入ったビールを買って座席について、キックオフを待ちます。座席は「Sold Out」で、キックオフが近くなるにつれて、オールブラックスの黒を基調にした服装(ユニホームやコスチューム、ビニールを被った少女の集団とか、顔にペイントした子供)で溢れます。

グラウンドでは、原住民マオリのハカ・パフォーマンス、両国歌斉唱(ちなみに、両国の国歌と一緒に歌ってみました)に続いてオールブラックス戦いの儀式のハカは、控えの背番号20を背負ったピリ・ウィーブが仕切ります。今日は、重要な試合に見せる「ニューハカ」で士気を高めます。



スタンドも盛り上がり、キックオフ。前半は、両者決め手がなく、ダン・カーターのペナルティー・ゴール4つだけで12対0。ワラビーズ側はキャプテンのウィル・ギーニアがイエローカードを貰うし、ハンドリングエラーも多くエエトコなし。特筆すべきは、ボールを手にするたびに場内からブーイングを貰うエード・クーパーの人気。ニュージーランド生まれのオーストラリア代表で、ラフプレーが多いのが特徴ですから、嫌われるんでしょうね。



後半は、敵陣で戦うオールブラックス。イズラエル・ダグのトライでスタンドが熱くなり、イケイケムードの猛攻ですが、キャプテン・リッチー・マコウのインゴール・ノックオンなどでトライを奪う事ができず結果は22対0。ワラビーズも、フォワード、バックスが一体化した猛攻撃を仕掛けるも、オールブラックスの鉄壁のディフェンスに阻まれるだけでなく、痛恨のノックオン、ハンドリングエラーでチャンスを自らつぶすばかりです。



オールブラックスが世界一である理由は、突破力、展開力というオフェンスの部分が強調されていますが、ディフェンスの部分の強さと、ここの一番の集中力というメンタル部分の強さを兼ね備えているからだと思います。夢のイーデンパーク、オールブラックスの強さを見せつけられた一日でした。



さて翌日は、市内中心のブリトマートからバスに乗って北へ30分のアルバニーへ。

目的地は、ノースハーバー・スタジアム。続いてITMカップのノースハーバー対ワイカトの試合観戦です。これは州代表の14チームでチャンピオンを決める対戦で、昨シーズンはクライストチャーチのあるカンタベリーが優勝。このリーグの中で活躍した選手が、スーパーラグビーのチームと契約し、その中で目立てば国代表のオールブラックスにセレクトされるという段階を踏みます。



アルバニーのバスの駅を降りると、緑の平原と道路の先の彼方にポツンと見えるのが、スタジアムとショッピングセンターだけというすごい環境。スタジアムの横には、クラブハウスがあって、芝生のグラウンドが並び、子供たちが裸足でボールを追いかけています。

スタジアムに入場すれば、二本目の試合の真最中、ノーサイドのホイッスルの後は、子供達のクラブ・ラグビーチームの入場行進。楽しいイベント的スケジュールが終われば、本戦のキックオフです。スタンドは、両チームのウェアを着たサポーターだけでなく、入場行進を終えた子供達と、その家族と御近所さんで賑わいます。



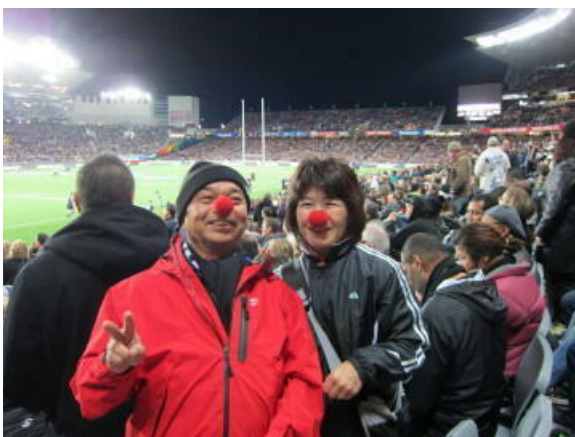
ノーサイドの笛が吹かれた後は、グラウンド開放で観客が芝生のピッチに入場可能となります。残った選手もサインしたり写真と一緒に入ったりと、ファンサービスに努めます。知っている選手なんて一人も居ませんが、大人も子供もラグビーを楽しめる空間って感じで、ニュージーランドが羨ましく思えて、ホント幸せな気分になりました。



子供の頃から、芝生のグラウンドに親しみ、楕円形のボールで遊んで、親も、祖父もラグビー経験者で、応援してくれるだけでなくコーチもして貰えるし、学校に入って女の子にもてるのはラグビーが上手な男子の子。テレビを点ければラグビー番組で国際試合の再放送を続け、ITMカップ全試合も視聴可能です。青年期もラグビーに親しみ、学生代表、地区代表、州代表、スーパーラグビー、オールブラックスなんて出世コースをたどります。

そりゃ勝てまへんわ、ニュージーランドには・・・

ラグビー王国バンザイ！また、この地を訪問したいですね。



2012年9月1日記

Top  
[トップ](#)  
[↑](#)

Back  
[戻る](#)



[2013ラグビーチャンピオンシップ～オークランド](#)